生命予後とその改善

新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
田尻美寿々，鈴木雄太郎

KEY WORDS
●生命予後
●統合失調症
●メタボリックシンドローム
●心電図異常
●自殺

はじめに

統合失調症患者は，一般人口に比して15～20年寿命が短いとされる[1]。米国の大規模な縦断的コホートにおいて，成人の統合失調症患者は，観察期間中の標準化死亡比が一般人口に比して3.7倍であった[2]。これらの重大な要因として，統合失調症患者の自殺率や心疾患による死亡率の高さがあげられる。本稿では，これら２つの問題におけるリスク因子を中心に最近の知見を紹介し，生命予後を改善するためのモニタリングや予防法について述べる。

Ⅰ．自　殺

自殺は，統合失調症患者の生命予後を左右する大きなリスクの１つである。実際，統合失調症患者では，10年後の標準化死亡比が一般人口に比して3.6倍，自然死は1.7倍，非自然死は13.3倍，非自然死のうち自殺に限ると20.0倍であったと近年報告された[3]。また，スウェーデンにおける38年間のデータの解析によっても，統合失調症患者では暴力，自殺，早死（56歳未満の死）のリスクが高く，一般人口に比して自殺は20.7倍，また早死は8.1倍であった[4]。また，男女別では，最初に診断された時点からそれぞれ１，２，５年で**図１**のような発生率であった[4]。統合失調症患者における生涯の自殺率は４～10％とされる[5)-8)]。自殺リスクは，診断された最初の年が最も高いとされるものの，その後も数十年に渡って高い状態が続く[9]。統合失調症患者の自殺のリスクに関してはさまざまな報告があり，近年のレビュー[10]を引用改変し，**表１**に記した。Hawtonら[11]は，統合失調症患者の自殺のリスク因子は一般人口の自殺のリスク因子と類似しているが，そのなかでも将来の病状悪化に対する恐怖，興奮，焦燥，アドヒアランス不良は統合失調症に特徴的なリスク因子であると報告している。

Prognosis and its improvement of schizophrenia patients.
Misuzu Tajiri
Yutaro Suzuki（講師）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.